



【プレスリリース】

2015年2月13日  
六本木アートナイト実行委員会

## 「六本木アートナイト 2015」開催テーマ決定！ 『ハルはアケボノ ひかるつながルさんかすル』 メインプログラムは“光る大型アートトラック”をフィーチャー

2015年4月25日(土)～26日(日)に開催する一夜限りのアートの祭典「六本木アートナイト 2015」。

六本木アートナイト実行委員会は、2013年、2014年に続きアーティストックディレクターを務める日比野克彦氏、新設されたメディアアートディレクターを務める株式会社ライゾマティクス代表取締役の齋藤精一氏と共に、「六本木アートナイト 2015」の開催テーマを『ハルはアケボノ ひかるつながルさんかすル』に決定いたしました。

2009年に始まり、今回で6回目\*を迎える「六本木アートナイト」。

メディアアートに光を当てた「六本木アートナイト 2015」では、変わりゆく時代の変わらないものごとに着眼して開催テーマを設定いたしました。

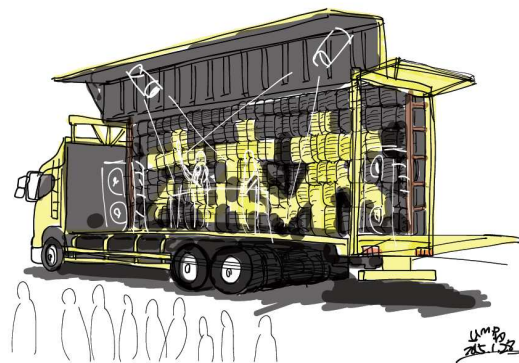
いにしえの時代から世界は驚くべき進化を遂げ、人間の生活も一変したように思えます。しかし時代が変わった今日でも、身の回りの環境と対話をするなかで人としての感性を育み、人との関係が生まれ、そして人々が生活する街が形成されています。今回の六本木アートナイトでは、『ハルはアケボノ ひかるつながルさんかすル』を、時代を超えた「人とメディア」のシンボルフレーズとして、また、街とメディアアートの関係性のキャッチフレーズとして発信していきます。

※2011年は東日本大震災により中止

日比野氏と齋藤氏がタッグを組むことで「六本木アートナイト」にどのような化学反応が起きるのか、ぜひ、ご期待ください。

### メインプログラムは“光る大型アートトラック”をフィーチャー！

今回のテーマを象徴するメインプログラムとして、齋藤精一氏主導の大型企画を計画中です。六本木ヒルズと東京ミッドタウンにLEDを実装した光る大型トラックが現れ、観客がスマートフォンで参加するインタラクティブな要素も盛り込んだ様々なイベントを展開していく予定です。



※作品イメージ画像

「六本木アートナイト 2015」は、このほかにも『ハルはアケボノ ひかるつながルさんかすル』をテーマに、六本木エリアを横断的に展開するインスタレーションやパフォーマンスなどを多数実施していきます。加えて、六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21.21 DESIGN SIGHT、国立新美術館などの会場でも作品展示やスペシャルイベントの開催を予定しています。

さらに今年は、様々な団体等に企画を持ち込んでいただく連携プログラムも充実させていく予定です。

また、交通アクセスについても例年同様、2015年4月25日(土)夜から26日(日)早朝にかけて都内主要ターミナル駅と六本木を結ぶ無料シャトルバスの運行や六本木ヒルズおよび東京ミッドタウンでの駐車場無料サービスなどを実施する予定です。

詳細情報を盛り込んだ次回リリースは2月下旬に配信予定です。



## 【アーティストディレクター 日比野克彦 プロフィール】



1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院修了。1986年シドニー・ビエンナーレ、1995年ヴェネチア・ビエンナーレに出品。領域横断的、時代を映す作風で注目される。2003年、越後妻有アートトリエンナーレで[明後日新聞社文化事業部]を設立、明後日朝顔プロジェクトの活動を開始。2005年水戸芸術館[HIBINO EXPO]、2007年金沢21世紀美術館[「ホーム→アンド→アウェー」方式]、熊本市現代美術館[HIGO BY HIBINO]など個展を開催。2007年より「種は船」を金沢・横浜・鹿児島・種子島などで造船。2010年より3ヶ月かけて制作した自走式の船で2012年「種は船航海プロジェクト～from 舞鶴」で3ヶ月間航海を実施。

国内各地で地域の人々と共同制作を行いながら、受取り手の感受する力に焦点を当てたアートプロジェクトを展開し、社会で芸術が機能する仕組みを創出する。また、2010年よりサッカーW杯にむけ、スタジアムでスポーツとアートの交流をはかる「MATCH FLAG PROJECT」を開始。瀬戸内国際芸術祭2013において、海の底の時間に焦点をあてた「瀬戸内海底探査船美術館プロジェクト『一昨日丸』」を実施。現在、東京藝術大学教授、日本サッカー協会理事を務める。

## 【メディアアートディレクター 齋藤精一 プロフィール】



1975年神奈川県生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科(MSAAD)で学び、2000年からNYで活動を開始。その後、ArnellGroupにてクリエイティブとして活動し、2003年の越後妻有アートトリエンナーレでアーティストに選出されたのをきっかけに帰国。その後、フリーランスのクリエイティブとして活躍後、2006年にライゾマティクスを設立。建築で培ったロジカルな思考を基に、アート・コマーシャルの領域で立体・インタラクティブの作品を多数作り続けている。2009年～2014年国内外の広告賞にて多数受賞。現在、株式会社ライゾマティクス代表取締役、東京理科大学理工学部建築学科非常勤講師。2013年D&AD Digital Design 部門審査員、2014年カンヌ国際広告賞 Branded Content and Entertainment 部門審査員。

## 【六本木アートナイト 2015 開催概要】

- 正式名称：六本木アートナイト 2015
- 基本理念：「六本木アートナイト」は六本木の街を舞台にした一夜限りのアートの饗宴です。様々な商業施設や文化施設が集積する六本木の街に、アート作品のみならず、デザイン、音楽、映像、パフォーマンスなどを含む多様な作品を点在させて、非日常的な体験をつくり出します。そして、生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルを提案します。また、アートと街が一体化することによって、六本木の文化的なイメージを向上させ、東京という大都市における街づくりの先駆的なモデルを創出します。東京を代表するアートの祭典として、さらなる発展を続けます。
- 日時：2015(平成27)年4月25日(土)10:00～4月26日(日)18:00  
 <コアタイム> 4月25日(土)18:22【日没】～4月26日(日)4:56【日の出】  
 ※コアタイムはメインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。
- 開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21\_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
- 入場料：無料（但し、一部のプログラムおよび美術館企画展は有料）
- 主催：東京都、アーツカウンシル東京・東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21\_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合（五十音順）】
- 公式サイト：<http://www.roppongiartnight.com>
- 一般問い合わせ先：03-5777-8600(ハローダイヤル) 営業時間：年中無休 8:00～22:00

### 報道関係の皆様のお問い合わせ

六本木アートナイト実行委員会 広報プロモーション事務局（株式会社プラチナム内）

担当：福田 貴大、丸山 智紗子

TEL:03-5572-6072 FAX:03-5572-6075 MAIL:roppongiartnight@vectorinc.co.jp





(別紙)

「六本木アートナイト 2015」 テーマ

# ハルはアケボノ

ひかるつながルさんかすル

人をとりまく周りの世界は、いにしえと現代では、その様相は一変した。しかし、様は変われど、いつの世も、人は「自分の外との対話」を行ってきた。

「春はあけぼの…」は、清少納言によって書かれた「人と自然との対話」の随筆「枕草子」の一節である。あれから約 1000 年、現代の「自分の周りの世界との対話」は、目覚ましい技術発展によりその密度とスピードを増し、今や人と人のみならず、人と都市環境、人と地球…自分の周りの全てと交信できるメディアへと変容してきた。やがては、自分が辿り着けない世界と自分の身体がつながる時代がやってくるであろう。

私たちの身体感覚は拡張し、知覚、認識感覚は融解し、自分と自分以外の境が、今と今以外の時間の区切りが、消滅する。

そんな時代だからこそ「春はあけぼの… (春は明け方がいい…)」の感覚・趣=おもむきを見失わないようにしよう。

陽が沈み、陽が昇る。その変わらぬ周期のなかに人がいる。私たちの周りの環境が、それに伴う人の生活がどれだけ変わろうが、西の空に陽が沈み、東の空に陽が昇ることは変わらない。

2015 年 4 月 25 日 18 時 22 分に、東京六本木の西の空に陽が沈む。やがて、メディアアートをフィーチャーした 2015 年の六本木アートナイトが幕を開ける。数十万人の人々がさんかし・六本木の都市とつながり・夜の世界がひかりだす。六本木の全てがメディアになり、時間の境が消滅しそうになり、1 時間が 1 秒になり、身体が拡張したような心持ちになり、宇宙の星に触れんばかりの気分になる。しかしどれだけその境が消滅しようとも…、2015 年 4 月 26 日 4 時 56 分に、六本木の東の空に陽が昇る。

「ハルはアケボノ」のその瞬間に、時間と身体は一分の一の等身大の身の丈へと戻っていく…。変化の激しいこの時代に、いにしえの時代からの変わらぬものがある。

そして、メディアアートが 1000 年後の世へと火を灯す。

六本木アートナイト 2015 アーティスティックディレクター 日比野克彦